

# 緑 風

NO. 30

令和7年7月15日発行  
佐沼高等学校同窓会

在京佐高会

## 【在京佐高会会長の挨拶】

多くの同窓生の皆様に  
参加いただけるよう  
お待ちしております！



在京佐高会副会長

坂入 茂

(高17回生)

副会長の坂入です。

現在、鈴木和敏会長が体調を壊されて「会長職務」の遂行が出来ないということなので、代行して会員の皆様にご挨拶いたします。尚、鈴木会長の病状は順調に回復しており、現在は月一度の通院・加療を続けられているということです。

同窓生の皆様におかれましては、元氣にお仕事や趣味にと充実した毎日をお過ごしのこととお慶び申し上げます。

令和7年度を迎え、アメリカのトランプ大統領が主張する「アメリカン・ファースト」による「関税問題」は、世界各国の経済に先行きが不透明で、不安や混乱を与える状況に陥っております。また国内では「令和のコメ問題」に加え「都議選・参議員選」等の動きにより不安定な暮らしを強いられることになるようです。

また一方では、社会全体でデジタル化が

普及・拡大しておりますが、「後期高齢者世代」にとっては日常生活において様々な場面で戸惑いを感じる日々となっているようです。

例えば、決済は「セルフレジ」、注文は「タブレット」、観劇や旅行の予約、チケット取得・割引サービスを受けるには「パソコンかスマホ」が無ければできません。会話を楽しみながらの外食や買い物をしようにと思つて出かけても「画面相手」では自宅のテレビの前で一日を過ごしているのと変わりありません。アナログ世代の小生には不便で仕方がありませんが、皆さんはどう対応していますか…？

さて、令和7年度の「在京佐高会」は、事務局を中心に役員の皆様の善意とご協力をいただきながら、春には「小さな旅」を実施して18名の方が参加されました。晩春からは、会報編集担当が「緑風30号」の原稿を依頼、編集・校正を工夫しながら発行を進めてきました。また、この秋には年間最大の行事「総会・懇親会」を控えています。同封のご案内のように、今年は11月2日(日曜)、上野の「東天紅」で開催することとなりました。これまでの「八芳園会場」から変更になりましたので、くれぐれも留意の上お運びください。

より多くの同窓生の皆様にご参加いただき、母校や故郷の思い出等を語り合い、懇

令和6年10月6日(日)、在京佐高会総会懇親会  
記念写真⑤役員一同、⑥ご来賓・顧問の皆様



親を深めていただきたいと思います。  
在京佐高会の役員一同、心よりお待ちしております。  
し上げております。

【佐沼高等学校同窓会会長ご挨拶】  
在京佐高会の発展をお祈りします！

会長 氏家 良典 様



在京佐高会の皆様  
におかれましては  
益々ご健勝のことと  
お慶び申し上げます。

本部同窓会の総会は昨年8月3日、地元佐沼において前年を上回る180名の方が出席され、盛大に開催されました。

幹事回生の年齢が、コロナ禍の影響により3年伸びて、これまでの57歳から60歳になりました。このことによるかと思いますが、幹事回36回生の皆さんの出席が多く感じられました。また、昨年はラグビー部が久々に花園出場を果たせるかと大いに期待したのですが、残念ながら叶いませんでした。次には、大いに頑張ってもらいたいものです。

さて、「新校舎」は、外見ではほぼ出来上がったように見受けられ、これから内装工事が始まるのかと思っております。「新校舎」の工事が進むに伴って、5月21日には「新校舎落成記念事業実行委員会」を設立開催いたしました。委員会の主な事業は、来秋11月に予定している①記念式典の開催、②記念モニュメントの作成、設置、③その他となっております。本校同窓会、



令和6年10月6日(日)在京佐高会総会・懇親会

ではご挨拶を賜わり、ありがとうございました。

お二方様には、今年も宜しく願いいたします。

本校PTA、本校教職員、及び、この趣旨に賛同する方々で運営しているこうと思っております。「記念モニュメント」は、卒業生(高25回生)の大友克洋さん作成による「陶板レリーフ」の事です。これを新校舎の玄関に設置する計画です。以前、大友さんに作成を依頼したところご快諾をいただき、この運びとなった次第です。ただ、この陶板の設置には多大な費用の770万円掛かります。実行委員会の大半の仕事は、この費用の捻出にあると思います。地元登米市内は勿論、宮城県内外の同窓生の皆様のご協力をいただき、目的を達成したいと考えております。つきましては、在京佐高会の皆様にも特段のご協力をお願いすることとなるかと思えます。その際は、何卒宜しくお願い申し上げます。結びにあり、在京佐高会の益々の発展と会員皆様の健康を祈念し、挨拶と致します。

【佐沼高等学校、校長先生のご挨拶】  
新校舎竣工で新しい歴史の1ページを  
刻み、有為な人材を育成いたします！  
佐沼高等学校校長 加賀谷 亮 先生



在京佐高会の皆様方  
におかれましては、日  
頃より本校の教育活  
動に温かいご支援・ご  
協力を賜り、厚く感謝を申し上げます。

令和7年度「緑風」への寄稿に当たり、佐沼高校での教育に携わる喜びと感謝を感じながら、文章を寄せたいと存じます。今年度もよりしくお願い申し上げます。

今年は創立123年を迎え、新しい校舎が竣工し、佐高の歴史に新たなページを刻むこととなります。校舎完成図のとおり、明るく近代的な3階建ての「回廊型」で、普通教室棟、東棟(芸術教室)、西棟(特別教室・定時制)でつながっており、在校生も新校舎での生活を通して、豊かな佐高の伝統を築こうと胸をときめかせています。校地内は、樹木を残し、旧校舎に慣れ親しんだ卒業生からも、在校当時の雰囲気を感じ取れるようにしました。新校舎引越のあとは、仮設校舎を解体し、その跡地に整備される校庭(ソフトボールグラウンド)の完成(来年夏ごろ竣工予定)をもつてすべての工事が終了いたします。

このたび、内外からのご期待にこたえるため、「宮城県佐沼高等学校新校舎落成記念事業実行委員会」を発足しました。委員会では、記念式典の開催や、記念事業の象徴として大友克洋氏(高25回卒業)の製作による「陶板レリーフ」の設置などを計画しております。その際は卒業生の皆さまにご支援、ご協力をお願いすることもあるかと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度も、ラグビー部、陸上競技部が東北大会へ、ボート部、美術部、定時制陸上競技部が全国大会へ駒を進め、多くの部活動が活躍しました。

これからも「至誠・献身・窮理・力行」の精神を忘れず、学問を大切に、有為な人材を育成してまいります。引き続き、佐沼高校へのご声援をお願い申し上げますと共に、皆さまのご健勝・ご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



完成図①正門側から俯瞰②全景とグラウンド



# 【佐沼高等学校、白旗先生近況報告】

令和7年、佐沼高校では今…

佐沼高等学校同窓会本部事務局

白旗 崇敬先生



在京佐高会の皆様には、日頃同窓会本部の活動に対し温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

同窓会本部事務局、「高43回生」の白旗崇敬と申します。中田町上沼在住で、剣道部OBです。令和5年度より事務局長を仰せつかっております。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

「母校の近況」をお知らせいたします。

5月下旬から6月にかけて、県高校総体が開催されました。今年も陸上競技部、ラグビー部、ボート部が上位入賞を果たし、東北大会へと駒を進めました。また、剣道部が男子団体としては16年ぶりとなる「ベスト8」進出、バドミントン部が男子団体としては13年ぶりとなる「ベスト8」進出、柔道部では男子個人73kg級で「ベスト8」進出を果たし、それぞれ東北大会まであと一步のところまで健闘、活躍いたしました。今回は、部活動の中から「ボート部」、「美術部」、「バドミントン部」の活躍をここに紹介させていただきます。

## 【ボート部】

6月下旬、青森県むつ市で行われた東北選手権大会において、男子は「総合第2位」、女子も「総合第2位」、そして男子ダブルスカル(2名の漕手がそれぞれオールを右手と左手に1本ずつ持ち、計4本のオールで速さを競う種目)では3年生の新井瞬(佐沼中出身)、3年生の富士原心優(佐沼中出身)が見事優勝、女子ダブルスカルで3年生の黒木にこり(若柳中出身)2年生の鈴木結愛(佐沼中出身)が優勝を果たしました！

荒天のため日程変更もある中、選手は日頃からの心構えと前日からの準備を怠らず、レースに集中して勝ち切る事ができました。8月の広島インターハイも頑張ります！応援宜しくお願いします

## 【美術部】

第49回全国高等学校総合文化祭(高松市美術館7月26～31日)への出展が決まっています。作品名は「FUNNY OW」で、作者は阿部真悠子(3年・津山中出身)——作者コメント、「この絵を見た時に、自分だけでなくたくさんの人々にも楽しんでもらいたいという思いから、遠くから見るとフクロウが見え、近くで見ると動物や模様が見える絵を描きました。」

## 【バドミントン部】

県総体において男子団体で平成24年以来

となるベスト8進出を果たしました。部活動が縮小傾向にある中、また私立高校が上位を独占する厳しい状況下において、公立校のベスト8入りは快挙であります。この成果は長年にわたり本校バドミントン部の礎を築いてくださったOB・OGの皆さまのお力添えのたまものです。心より感謝申し上げます。



※ボート部、美術部、バドミントン部の皆さん、ご活躍おめでとうございます！！  
ラグビー部、陸上競技部、柔道部も良かったですね。



さて、今年9月にはいよいよ新校舎が落成いたします。現段階では工事中のため新校舎はシートに覆われており、外観を目にすることはできませんが、「ロの字」型の校舎に円柱形の芸術棟(美術室、音楽室)

が連結された、機能性、デザイン性ともに優れた校舎となります。公開後はなるべく早く本校ホームページにて紹介できればと考えております。佐高のさまざまな情報をお伝えいたしたく、ホームページをぜひご覧ください。

## 【陶板レリーフ制作・設置募金のお願い】

この度、新校舎落成記念事業の「象徴」として、新校舎のエントランスを飾る作品の制作を高25回生で、世界で活躍の漫画家・映画監督の大友克洋氏に依頼します。焼き物の技術を用いた色彩豊かで立体的な絵画(陶板レリーフ)です。本校の新たな門出に相応しく、「未来へ向けた飛躍のモニュメント」として価値のある陶板レリーフを制作・設置する為、在京佐高会の皆様にはお力添えを賜りたく、特段のご協力・ご支援を、どうか宜しくお願い申し上げます。

■募金額：一口5千円より

■期間：令和7年8月1日

～令和8年8月31日

■募金方法：詳細は本誌12頁に記載の「募金振込先とお願い」を参照下さい

◆募金に関するお問い合わせは、

宮城県佐沼高等学校「新校舎落成記念事業実行委員会事務局」(全日制教頭、小野寺剛、定時制教頭、高橋由樹)

TEL: 0220-22-2022

## 【佐高卒の誇り】

伝統ある「在京佐高会」の歴史



在京佐高会顧問

菊地 拓朗 氏

(第17回生)

この度本誌「緑風」寄稿に当たり、「在京佐高会」創立の経緯と東京における同窓会の変遷の歴史を記し、皆様に「在京佐高会」のご理解を深めて頂く一助にこの想いで一文をお届けいたします。

佐沼高等学校は明治35年(1902年)その前身である宮城県立第2中学校登米分校として創立されました。そして在京佐高会(以後、本会)創設は昭和42年(1967年)1月22日です。

旧制佐沼中学校・佐沼高等学校の卒業生で関東地方に居住する同窓生有志の意向で設立されました。宮城県立第2中学校が創立されて65年程後になります。

時代背景は「最早戦後ではない」等と云われ、日本経済が高度成長期に入る入口の時代でした。今日云われます所謂「団塊の世代」が就職の為に続々と未来の生活の場を求めて東京に集合した時代でもありません。佐高生も例外ではなかったはずで

経済状況も「最早戦後ではない」と言う言葉に云い現わされるように物が無く貧しかった戦後の時代は終わり、「豊かな時代の到来」を予見させる世相でした。

### 【同窓会の始まり、裸足会・東京同窓会】

東京を中心とした同窓会の始まりは資料が乏しく明確ではありませんが、大正時代後半、戦前、戦後に旧制中学の比較的早い回期の卒業生を中心に、「裸足会」と云う同窓生が集う親睦グループが存在していたとこのことです。戦後この「裸足会」を継承して、昭和37年頃実業界で成功された大石耕一郎氏(旧12回・大正7年3月卒)を会長とした、「東京同窓会」が発足しました。この「東京同窓会」が本部同窓会組織の関東支部として正式に認証された初めての東京同窓会組織になります。同会は3年余り活動しましたが役員間に内紛と対立が生じ事実上の解散状態となります。

### 【「在京佐高会」の発足】

その間にも佐高卒業生は続々と東京に集合しています。そこで多数の卒業生が集まって来ている東京がこれではいかんと憂いた同志が語らい、新しい同窓会組織「在京佐高会」が昭和42年に発足しました。会長は「八嶋元徳 氏」(旧1回・明治40年3月卒)、事務局長には「榊原卓郎氏」(高1回・昭和24年3月卒)が選任され、

他の役員は18名余りで、殆んど旧制中学卒業生でした。筆者の手に、昭和43年に作成された「在京佐高会会員名簿」の複製版があります。その名簿によりますと会員数は439名での船出だったようです。

筆者は平成10年(2000年)と本会の事務局長を務めました。その当時の会員数は約1000名前後でした。現在、令和7年では500名前後です。会員数の減少はそのまま本会の減衰につながっています。

戦前の「裸足会」そして戦後の「東京同窓会」設立当時は東京に佐高卒業生は少なく、有力な卒業生を中心に集い、酒を酌み交わし、就職の世話を請い、家庭のたわいもない話をしては酔いつぶれて世話になる。広い東京で少ない同窓生同士が励まし合い、そんな状況の中から同窓会を結成しようと言う気運が盛り上がった、昔旧制中学卒業の大先輩の方からお聞きしたことがあります。現在60、90才の関東近辺在住同窓生は推定200名程と思われます。「裸足会」から始まり長い永い年月が経過しました。かつて我々の先輩方は、佐沼高校卒業生は「仙北の雄」そして有名な同窓生としての「矜持」を強く持つておられたと、昔、先輩方から諭されたことがありました。

母校では、毎年5月1日に全校生徒に向けて「開校記念講和」を行っています。

平成10年(1998年)の講演者は、城市富夫氏(高4回)でした。講和の演題は「佐高生の誇り、佐高卒の誇り」でした。城市氏は本会の第8代会長(平成5年(1993年)を務められた方です。

同窓生各位に申し上げます。「在京佐高会」の運営は年々会員数の減少により厳しくなっています。ですが、まだ未会員の同窓生が関東近辺には150名も在住されておられます。「仙北の雄」である佐沼高校同窓会東京支部「在京佐高会」はこのまま減少の一途を辿ってもいいのでしょうか。東京における地方高校の同窓会組織は稀有だと聞きます。

形を変えながらも、大正時代より続く伝統ある「在京佐高会」です。この会を継承し続けていく為にも在京の同窓生各位には格段のご理解を賜り、是非ともご参加頂きますよう、そして、お知り合いの同窓生の皆様方にも声をかけてお誘いください。よろしくお願いいたします。





## 令和6年度「役員会活動」の紹介 魅力ある「在京佐高会」を目指して…



事務局長

亀川 善悦

### 【事務局長就任、初年度の想い】

在京佐高会の会員相互の親睦を更に深めることと、より多くの在京佐高高校卒業生の皆様に「在京佐高会」に参加いただく為に、事務局長就任一年の目標を次のように決めました。

### 【役員会の活性化】

役員が一丸となり、楽しく和気藹々とした「役員全員参加！」を目指す。

### 【情報の共有・「認識の統一」】

「決定事項の明確化」の為、議事録をより詳細に作成、認識を統一すること。

「役員会用グループライン」を活用して常時、意見交換が出来る体制を作ること。お陰様で積極的な意見交換が出来るようになりました。

### 【総会・懇親会への参加率を高める】

年間最大のイベント「総会・懇親会」により多くの方に参加いただけるような企画を考え、先ず、手始めに「在京佐高会」の活動内容を幅広く知ってもらう為に、佐沼高校の同総会・ページに「在京佐高会総会・懇親会」と「小さな旅写真

集」を掲載しました。

佐沼高校ホームページへの掲載により、同窓生だけでなく在校生の皆さんにも見ていただけるようになりました。将来に「若い卒業生の皆さんの参加率向上」が期待できると考えられます。

### 【在京佐高会役員活動の紹介】

「在京佐高会」は「会長」を筆頭に「副会長」「顧問」等、現在28名の皆さん方で役員が構成されています。

今回は令和6年度の活動内容を、時系列で紹介させていただきます。

#### ・第1回役員会…3月中旬開催

年間の「役員会スケジュール」「役員会の議題」「総会・懇親会」の日程等を決定しました。

#### ・「小さな旅」…4月初旬開催

令和6年度は千葉県松戸市「戸定邸」を見学、館内・庭園を散策しました。

#### ・第2回役員会…4月下旬

#### ・第3回役員会…5月下旬

#### ・第4回役員会…7月上旬

第2回～4回までは共通の議題で「総会・懇親会」の具体的内容を協議・検討して、案内文書の郵送準備作業を役員全員で行いました。また「会員増強策の検討」については毎回、協議・検討事項として話し合っています。

#### ・第5回役員会…8月中旬開催

「総会・懇親会」開催案内状の発送作業を全員で行いました。会員460名の皆さん宛「総会・懇親会」の案内資料を役員総出で封入する発送作業です。

同封の資料は4～5種類で、「案内状」「会報」を3つ折りにする係、「宛名シール」を貼る係、封入する係で、それぞれ担当毎に作業をします。また、役員の中には少しでも参加する方を増やす為の工夫として、「手作りのメッセージ」を自分の同期生や友人・知人の封筒に入れて参加を呼び掛けている方もいました。なにしろ役員全員が大奮闘の封入作業なのです。

このような役員の一生涯懸命な姿を思い浮かべて、私どもの心意気を感じ取っていただければと願っています



※写真は全員で役割毎に封入作業の様子です。

#### ・「総会・懇親会」…10月6日開催

当日は朝から全員で、八芳園の会場準備です。「横断幕」を張り、「名札」を用意して、「受付」等の準備をして、会員の皆様をお迎えしました。

#### ・第6回役員会…9月下旬

#### ・第7回役員会…11月中旬

「総会・懇親会」の反省と・検討課題を話し合い、「次年度の方針と年間スケジュール」を決定しました。

以上が役員会の主な年間活動内容です。私達、役員全員の希望は一人でも多くの方に会員になっていただくことです。その為には、「口コミ」や「紹介」がとても有効です。皆様方の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。最後に魅力ある「在京佐高会」を目指して役員が一致協力して実現に努力して参ります。「会員になつてよかった」「懇親会に出席して楽しかった」「いい思い出になった」等と感じていただける「総会・懇親会」を目指し、全員で知恵を出し合つて参ります。

#### ◎今年の「総会・懇親会」は11月2日(日)

上野「東天紅」で開催いたします。多くの皆様にお会いできますことを心から楽しみにしております。

※亀川事務局長は大変お忙しい会の運営に携り、貢献・活躍されています。ここに感謝申し上げます。 (編集担当)

## 【船坂朗子の世界の旅】

「スイス3大列車と3大名峰の旅」

―三回連載シリーズ、第一回―



在京佐高会監事

船坂 朗子さん

(高20 回生)

昨年3月、私は45年間続けた海外旅行の「ツアー・コンダクター」を退職した。私が訪ねた国は108カ国、添乗日数は5200日を超え、一昨年国土交通大臣賞を受賞した。生家は東和町錦織です。父はカナダ生まれで家にはアルバムがあり、カナダ時代のたくさんさんの写真を見るたび外国に憧れ、大人になったら世界中をこの目で確かめたいと思って育った。

そんな私が「ツアー・コンダクター」となつて、ヨーロッパを中心に、北米、中南米、その他アジア、アフリカ等にも行き、様々な国の「歴史、文化、自然」に触れた。それは、多くのお客様との感動の歴史だった。旅の終了後は参加の皆様に、「旅の思い出」とツアー毎に「旅日誌」を作成した。

今回、本誌「緑風」に「船坂朗子の世界旅」を掲載するに当たって、第1回目は、その「旅日誌」の中でも特に美しく、思い出が深かった「スイス3大列車と3大名峰(マッターホルン・ユングフラウ・モンブラン)の旅」

のほんの一部を紹介する。

「スイス連邦」はご存知かと思いますが、面積が4.1万km<sup>2</sup>で九州よりやや大きい国で、人口904万人の永世「中立国」、そして首都は「ベルン」です。

### (1)、スイスの氷河特急

スイスは鉄道王国だ。「美しい国」を守るために道路では無く鉄道を先に敷設し、明治4年にはすでに「リギ山登山鉄道」が開通していた。明治45年にはスイス鉄道最高峰のユングフラウ駅<sup>3,545</sup>メートルが開通した。富士山の9合目あたりの駅を想像して欲しい。中でも人気の列車は氷河鉄道だ。最新のパノラマ展望車両で、「ツェルマット―サンモリッツ間」を走る。名峰「マッターホルン、モンテローザ」等の7つの谷、291の橋、91のトンネルを抜けてスイスアルプスを横断する約8時間の旅です。1930年に開通した人気のルートはアルプスの名峰、美しい森や牧草地、山間の急流や溪谷などが次々と車窓から現れる絶景の連続である。天井まである大きな展望窓のパノ



ラマ車両は、エアコン完備、テーブル付きの広い座席、日本語を含む6カ国語で説明が聞けるイヤホン、座席まで出来たての食事を運んでくれる快適な旅です。

### (2)、マッターホルン

アルプス山脈のなかでも、マッターホルンは標高4,478mの独立峰で、別名「アルプスの女王」といわれる。山頂にはスイスとイタリアの国境が通り、麓の町は、スイス側にツェルマット、イタリア側にブレイル・チェルヴィニアがある。かつては、天空を突刺すかのような独立峰のマッターホルン頂上には、立つことなど絶対に不可能と思われていた。頂上に悪魔が棲んでいるといわれた。しかし1865年7月14日、ついに、英国人のエドワード・ウィンパー率いる7人のチームが登頂に成功した。しかし、下山途中に4人が滑落、4名が命を落とした。その後、

マッターホルンはますます有名になり、英国をはじめ各国から多くの国から多くのアルピニストや観光客がツェルマットを目指した。そして現在のような国際的に有名

な山岳リゾート地に発展した。1967年には日本人の若山美子・今井通子さん二人が女性だけのパーティで北壁の初登頂に成功した。

### (3) スイス料理



スイス料理と言えば、すぐチーズフォンジュを思い出すが、山岳地帯で農業には適さないのが牛・羊を焼いたり炒めたり煮込んだり、チーズ料理も多い。また、スイスはヨーロッパの真ん中にあり、三国と接し言

葉も三語カ国、ドイツ語、フランス語、イタリア語圏では、それぞれ味も違う。写真は典型的なスイスのチーズ、ハム、シュールクルートのサラダの軽食と、おつまみだ。

### (4) スイスの救援隊

スイスは1674年永世中立国を宣言、確固たる信念を持つて世界中の震災に対していち早くレスキュー隊を派遣することで知られる。3・11の三陸沖津波の時も、救助犬を連れていち早く、プロのレスキュー隊を送ってきた。しかもベースキャンプは南方の運動公園にテントを張った。各国の救援隊は福島原発の放射能漏れが判るとすぐ帰国命令が出て2・3日で撤退したが、スイスだけは予定の7日間被災犠牲者の捜索に頑張った。今回はその国の美しさは勿論のこと、感謝の念を込めてスイスを紹介した。



## 【故郷、錦織に記念碑建立】

カナダ移民の苦難と成功！  
太平洋の架け橋となる



在京佐高会

根本 文子さん

(高9回生)

私達家族の故郷は、どこへ行くにしても北上川の錦桜橋(中学生まで渡し船)を渡らなければならない。「錦織」地区である。3月23日、私達はカナダ移民のパイオニア、とも言われる大伯父「佐藤惣右衛門記念碑」の除幕式を行った。

「佐藤惣右衛門」は、今も昔も変わらない「錦織村」に明治9年(1876)、後日、村長も務めた佐藤甚右衛門・しゅんの次男として誕生。17歳の頃キリスト教を知り、家業の「錦織養蚕伝習所」の生糸輸出を見て渡航を決意。父からの百円を懐に横浜から貨物船に雇われてカナダに渡った。農家に住み込み2年目から故郷に送金した。勧められて購入した近隣の原野がバンクーバー港開発用地となり、高額で売却。カナダ国籍を取得して米川の及川甚三郎と共にフレージャー河の2島を租借。塩鮭や筋子の加工、輸出で成功。身元保証人となり、飢饉や洪水で苦しむ故郷の人々を呼

寄せ、送金を可能にした。

『加奈陀同胞発展大鏡』は「成功五人男」に惣右衛門を挙げ「君が一人食らず、先ず人を達せしむ」と記している。しかし、昭和16年の太平洋戦争で日系人は全財産没収・遠隔寒冷地へ強制移動となる。惣右衛門も庭師として働き、昭和20年終戦。惣右衛門はその後も何かと工面して北上川の大洪水や錦織教会の建設にも尽力。帰国の夢は叶わず、昭和31年カナダ・ハミルトンで逝去、80歳であった。

除幕式の場所は、惣右衛門の父母、妹夫婦(私達の祖父母)その息子夫婦(私達の父母)が眠る錦織の寶林寺境内である。懐かしい故郷の皆様の掛け声と共に、私達姉妹、従妹、従兄の家族は、惣右衛門本家の佐藤忠良氏、健太郎氏親子、ご出席代表の伊達宗弘先生、協力者の小野寺寛一氏と共に紅白の綱を引いた。「太平洋の架け橋となる」―生き生きと輝いて出現したのは、元エジプト大使で、カナダ・バンクーバー総領事でいらした片倉邦雄先生(石森ご出身・93歳)にご揮毫いただいた墨書である。皆様の歓声と拍手が静まると、司会の錦織公民館長、猪股良雄氏に促されて、小野寺寛一氏が今日のために片倉先生が速達で届けて下さったメッセージを代読された。先生はバンクーバー総領事時代に日加交流にご尽力下

さったご経験から、次のように述べておられる。「登米市石森出身の人間としては不思議なご縁で、カナダ移民のパイオニア佐藤惣右衛門氏、及川甚三郎氏を始め同郷、その子孫の方々の存在を知り、『バンクーバー宮城県人会』発足のお手伝いをしました。『密航船水安丸』を始め、移住当初の苦労話からはじまり、太平洋戦争勃発による日系人の苦難、強制移動の足跡を辿るとき、この艱難辛苦を超えて、これら先駆者たちはみごとに日加間に「太平洋の架け橋」を築かれたと思います。」

先生は続けて、「この言葉はバンクーバーのニトベ・ガーデンにある石碑にぎざまれた『願わくは、われ太平洋の橋とならん』という言葉を思い出した事、私達には地続きで親しい岩手県盛岡出身の新渡戸稲造は、「国際連盟事務次長だった人物で、日本最初の国際人といわれた方です。」と励まして下さり、「これからの世代の人びとに海外雄飛の夢を追ってほしいとの願いに通じるものです」と結ばれている。

続いて登米「伊達家」のご当主で、大学教授、日本文芸家協会会員、日本ペンクラブ会員で、多くのご著書をお持ちの伊達宗弘先生よりご祝辞を頂戴する。先生は惣右衛門を始めとするカナダ移民の、太平洋戦争による苦難の歴史に心をよせて下さった後、九百年前の歌人、源俊頼の

歌を挙げられ、「なんと心豊かになる和歌でしょうか」と問いかけられた。

「さまざまに心ぞとまる 宮城野の花の色々 虫のこゑこゑ」

長年俳句を趣味としてきた私も、この問いかけに、戦争の心配もなく日本の四季の自然に安心して心戯れることの出来る平和な日常の幸せは、移民の方々のご苦労の賜物と改めて深く感謝したのであった。



## 【ゴルフ倶楽部活動のご紹介】

年9回程コースに出て楽しんでます



優勝は菅原憲司様  
でした！  
(18回卒ラグビー部主将)

「イージー倶楽部」の名称は・・・？  
「安易・容易・気楽・手軽・呑気・悠々」等。  
皆さん、お気軽に参加してくださいね。

今や人生百年時代を迎えて、  
後輩の手下となる先輩の方々です。



丸森三郎様 (3回卒)  
93歳



菅原 譲様 (3回卒)  
93歳



佐々木文雄様(11回卒)  
85歳

老いて尚、心・技・体を極められ、  
日々を楽しむ方々の雄姿ですね。



## 【ゴルフ倶楽部をご紹介します。】

梅原猛「元京大教授の言葉に」人間二人  
いれば必ず支配と非支配の関係が生まれ、  
三人いれば派閥が生まれ出る」と言ってお  
られるが、当ゴルフ同好会は例外中の例外  
で支配者も非支配者も存在せず、派閥も  
ない、ただのゴルフ好き人間の集まりです。  
この集いの歴史は、故、榊原卓郎先輩のお  
声掛けにより「在京佐高会」「東京中田会」  
「ライオンズクラブ」「弁護士グループ」等  
からゴルフ好きの面々が相集い、ゴルフを  
楽しんでおられました。平成15年11月に  
主唱者の榊原先輩が急逝された為、その  
後、第七回在京佐高会会長の「菅原譲氏」  
が世話役となつて名称を「イージー倶楽部」  
―「安易・容易・気楽・手軽・呑気・悠々」等  
の意味を持つ会に変更、継続してきました。  
その後、世話役は鎌田敏弘氏、桐木隆夫  
氏の二人で継続しています。昨今はメンバ  
ーの高齢化を考慮し、夏冬を除く年9回、  
3カ月に一度のコンペを開催して親睦を深  
めています。在京佐高会の皆様で「ゴルフの  
楽しみをお求めの方」は遠慮なくご視察、  
テストを兼ねて一度参加されてはいかが  
でしょうか？メンバー一同、たくさんの方  
の参加を心よりお待ちしております。

※入会・参加希望は世話役の「桐木隆夫  
さん」迄ご連絡下さい。

連絡先、090-9801-0396です。



# 【令和7年小さな旅ご報告】

「葛飾柴又・歴史博物館」を見学  
懇親会も大変盛り上がりました！  
常任幹事 寺島 邦義（高20回生）



今年の小さな旅は、令和7年4月5日（土）、「フーテンの寅さん」でお馴染みの東京都葛飾区柴又の地を訪れました。柴又駅前にある「寅さん・妹、さくら」の銅像前に集合、映画でお馴染みの、懐かしい昭和が漂う参道を歩いて「柴又帝釈天（経栄山題経寺）」に到着。皆さんと集合記念写真を撮影後、参拝してから説明ボランティアの方の案内で堂内の建築物や彫刻そして美しい庭園を回遊・見学しました。改めて「帝釈天の歴史や意義の奥深さ」に触れたと思います。その後、「寅さん記念館」・「山田洋次ミュージアム」に行きました。「寅さん」にまつわる時代背景などの説明を聴き、「映画に登場した人達やマドンナのポスター」「映画のセット」等、どれを見ても「ああそうだったね！」と昭和のノスタルジーに浸ることのできたひと時でした。

今回は男性7名・女性11名、合計18名の方に参加いただきましたが、「在京佐高会」の皆さんの日頃の行いが良かったと見え、天気も晴れて、春の陽光を浴びながらのとても気持ちの良い旅となりました。



この後、男性7名・女性6名計13名の方が参加、金町駅近くの懇親会場へと向かいました。美味しい食事とアルコールも入って話が弾み、時間が経つのも忘れる程笑いの絶えない、大変盛り上がりのある懇親会でした。次回もお楽しみに…。



【次回小さな旅のお知らせ】  
「皇居東御苑散策」を予定



令和6年10月6日(日)「八芳園」会場  
**「在京佐高会総会・懇親会」の  
 開催報告と今年度のお知らせ**



編集担当

常任幹事

鎌田 麗

(高25回生)

令和6年度「在京佐高会総会・懇親会」は、港区の「八芳園」に於いてご来賓3名、会員63名、計66名の皆様に参加いただき、開催することができました。参加いただきました皆様、お忙しい中ありがとうございました。「総会・懇親会」当日の様様を写真と共にお伝えします。

**「八芳園」にての開催準備**

各役員は8時30分集合、朝礼の後、「総会資料の袋入れ」「会場の設営」「受付準備」をして、10時から参加の皆様のお受付を開始しました。

## 第一部 在京佐高会総会

「在京佐高会」の坂入会長代行の挨拶の後、出席者の皆様に総会の議案を審議していただき、ご承認を得ることが出来ました。その後、佐沼高等学校同窓会の氏家会長、佐沼高等学校校長加賀谷先生にご挨拶をいただき、第一部は滞りなく終了しました。

## 第二部「懇親会」

佐沼高校同窓会本部、事務局長白旗先生のご挨拶をいただき、「在京佐高会」の菅原秀元顧問による「乾杯のご発生」をいただき、和やかに懇親会が始まりました。まずは食事を取られる方、お知り合いの方や来賓の方とお話されている方、様々でした。少し時間も過ぎてご歓談の時間となった時には、

1、正面のスクリーンには佐沼高等学校の記念DVD記録動画が流れ、嘗ての懐かしい校舎と共に、時代の移ろい、四季の移ろいが映し出され何とも感慨深いものでした。

2、その後、昨年の「総会・懇親会」の記念写真が中島みゆきの歌と共に次々と映し出され、歓声と共にたくさんの方がご自分の顔を探されていたようです。

3、次に、昨年より好評の佐沼高校卒業同期別の写真撮影会、懐かしい人達と一緒にの写真撮影でした。

4、今回新しい企画で、各テーブルから代表で一人ずつ近況等のご挨拶をいただきました。―司会補助が各テーブルを回り、サイコロにより代表者が決定されましたが、発表者の皆さんは臆することなく、堂々とご挨拶されていました。5、その後「校歌斉唱」に続いて、在京佐高会事務局長による「応援団のエール」を

【受付会場・資料準備】―受付の準備、配布資料袋詰め等の準備風景―



【第一部、在京佐高会総会】―「会長挨拶」「会計報告」「総会議長」―



いただきました。さすが元応援団長、「学ラン着用」の本格的な熱血エールに、皆さんも高校時代に戻ったかのように大声で応えておられました。

6、最後に「万歳三唱」「閉会の挨拶」をいただき、懇親会は幕を閉じました。

【令和7年度の総会・懇親会のお知らせ】令和7年「在京佐高会の総会・懇親会」は11月2日(日)に、上野の「東天紅」で開催することになりました。

皆様にお願ひです。同窓生で「まだ参加されていない方」には是非声をかけていただき、お誘いあわせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

今年もまた、お目にかかれまますことを楽しみに、役員一同お待ち申し上げます。

※これまで開催の「八芳園」はリニューアル工事の為使用出来なくなりました。お間違えにならないようご注意ください。







【開会挨拶】  
副会長 桐木隆夫氏



【懇親会司会】 常任幹事  
森田次男さん、鎌田麗さん

【在京佐高会・懇親会】



佐沼高等学校校長  
加賀谷 亮 様



佐沼高校同窓会会長  
氏家良典 様

【ご来賓のご挨拶】



【閉会の挨拶】  
遠藤誠幸顧問



【万歳三唱】 小峰 喜八顧問



【校歌斉唱】 亀川善悦元応援団長



佐沼高校事務局長白旗崇敬先生

—— 卒業期別グループの皆様で記念撮影会 ——



高15～17回生グループ



高10～14回生グループ



高07～09回生グループ



高21～24回生グループ



高20回生グループ



高18～19回生グループ



高25回生グループ



高28～33回生グループと先生方



ご来賓と顧問の皆様



## 【令和6年度の会計報告】

皆様のご理解に感謝申し上げます



副会長兼会計担当

坂入 茂  
(高17回生)

令和6年度会計報告書を左記に掲載いたしました。本年度は年会費の増額をお願いし、ご承認をいただいてから初めての会計年度でした。ご了承を戴きましたが、実際にどれだけの皆様からご理解を頂き入金していただけるか内心ハラハラしておりました。お陰様で報告書に記載の通り財務状況が好転の方向になりました。

今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げますと共に、改めまして皆様に感謝申し上げます。有難うございました。

## 令和6年度収支報告書

令和6年1月1日～  
令和6年12月31日(単位:円)  
会計担当:  
坂入 茂(高17回生)

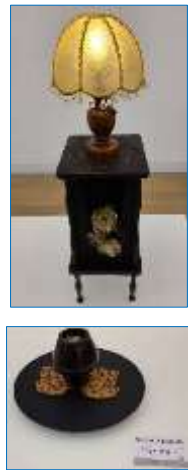
## 令和6年度監査報告書

左記「収支報告書」に関して  
厳正に監査した結果、適正  
なる処理による報告書である  
と確認いたしましたので、茲に  
ご報告いたします。  
監事:佐藤榮記(高15回生)  
監事:菅原洋子(高20回生)

収入の部	
科目	金額
前年度繰越	235,242
年会費収入	474,000
総会費収入	641,000
有志寄付金収入	10,000
受け取り利子収入	12
合計	1,360,254
支出の部	
科目	金額
事務局費用	217,859
会報費用	88,000
総会費用	743,179
支出部合計	1,049,038
翌年へ繰越	311,216
合計	1,360,254

## 【三軌展をご紹介いたします】

山下百合子さん(高15回生)の作品



山下さんから「小さな旅」の折、「三軌会」の案内パンフレットをいただきました。そこで在京佐高会の先輩の皆さんと5月17日展示会場に伺いました。広い会場には様々な種類の作品が数多く展示されていました。館内を廻りましたがどのコーナーも面白く、素敵な作品ばかりなので興味津々、素晴らしい感動の連続でした。

写真は、山下さんと先輩の皆さんそして「皮製の作品」と一緒に記念撮影したものです。木製ではなく、全て皮を用いて作られている作品とのこと。因みに、こちらの作品を完成させるまでには長い日数かかっているそうです。作品を仕上げるには「アイデアとセンス」「根気と技術」「皮素材に関する深い知識」があつて初めて、輝かしい作品が出来上がるのだと改めて認識、感動して参りました。このような会にお招きいただき、山下さんありがとうございました。これからも素敵な作品を多くお作りになつてください。先輩のご活躍と作品をご紹介させていただきます。ご紹介は「寺島 邦義さん」(高20回生)でした。



※電球は別ですが、全て「皮製品」なんだそうです!?

## 【制作・設置 募金振込先とお願い】

振込口座「七十七銀行 佐沼支店」  
(店コード705) 普通5058477

口座名義「宮城県佐沼高等学校 新校舎落成記念事業実行委員会 委員長 氏家良典」  
「ミヤギケンサマコウトウガッコウ シンコウシヤラクセイキネンジギョウジツコウインカイ ウジイェヨシノリ」

お願い「寄付芳名板に、お名前を記載させていただきます。卒業回(全日制/定時制別)・氏名・電話番号の記入をお願いいたします。尚、「卒業回/卒業年の対照表」は佐沼高校ホームページに掲載しております。ご確認下さい。

記入例:(全・定・卒業回、氏名、電話番号)  
全〇〇回、佐沼太郎

(電話)〇〇〇××××△△△△

## 【編集後記】

編集担当 鎌田 麗、畑岡 廣信  
(高25回生)、(高20回生)

鎌田、畑岡の二人で「緑風」の担当になって2年目を迎えました。

今年度の方針を「会員数が増えることを目指す」「見て・読んで・楽しんでいただける内容」「写真を多用した新しい会報づくり」とし、二人三脚で企画、編集をしてまいりました。「佐沼高校在校生のクラブ活動」の様子やお元氣な「ゴルフ倶楽部」のご紹介、「新企画記事の掲載」等、さらには「総会・懇親会」「小さな旅」の参加された方々の笑いと和氣あふれる顔をより多くお届けしたいと思い、例年の4ページから12ページと3倍に紙面を増やして刊行することが出来ました。ここに、原稿作成にご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。今後も皆さんのご意見を頂きながら、二人でアイデアを出し合い、皆さんに喜んで読んでいただける、企画・編集に努力して参ります。ご協力の程、お願い申し上げます。

## 【在京佐高会事務局】

埼玉県越谷市蒲生3-3-50-807

事務局長 亀川 善悦

電話・ファックス

〒343-0838

048(971)5915